



令和4年度宿南地区自治協議会総会の結果

令和4年度宿南地区自治協議会総会を4月28日（木）に書面開催方式で実施いたしました。本年もコロナ禍であり対策を施しての対面開催を検討しましたが、会場・収容人数等で断念いたしました。議事の第1号議案～第6号議案まで運営委員56人で書面審議をいただきました。回答提出は48人でした。貴重な意見もいただきましたが、各議案とも過半数の賛成により可決されました。

【宿南地区自治協議会役員】

役職名	氏名	備考
会長	維田 浩之	口三谷区長
副会長	林 安宏	町 区長
会計	藤盛 頼幸	川西区長
理事	内海 博	寄宮区長
	片山 博文	川東区長
	吉田 尊文	門前区長
	多田 勝俊	青山区長
	太田垣 均	奥三谷区長
	西田 雄一	地域づくり部 部会長
	田村 吉宏	体育部 部会長
	西井 喜久	文化部 部会長
監事	西田 毅	福祉部 部会長
	吉田 尊文	
	内海 博	

【宿南地区自治協議会専門部会】

専門部会名	役職名	氏名
自治振興部	部会長	維田 浩之
	副部会長	林 安宏
地域づくり部	部会長	西田 雄一
	副部会長	桑原 一憲
体育部	部会長	田村 吉宏
	副部会長	多田 英則
文化部	部会長	西井 喜久
	副部会長	宇和野敏之
福祉部	部会長	西田 毅
	副部会長	田中 美晴

【事業計画】

日程	行事
7月 2日	ボウリング大会
7月 3日	農家日役
8月14日	盆踊り大会
9月18日	宿南地区総合運動会
10月30日	村民号（出雲方面）
11月20日	文化祭

主な行事を記載しております。
 開催要項等はその都度お知らせ致します。

議会報告会開催



第22回養父市議会報告会が4月25日ふれあい倶楽部ホールで4人の議員を迎えて開催されました。3月定例会からの報告。質疑応答、意見交換等を行ない1時間30分という短時間ではありましたが宿南地区の要望等を伝えました。参加人数が少なく、次回は多くの方の参加があらばと思われました。



身近で見られる植物 ⑫

【タニウツギ】(谷空木) <スイカズラ科>

タニウツギは、今の時期、山際の田畑の縁や道端の日当たりの良いところでピンクの花を咲かせます。花の形はラッパ型の筒状です。これよりも遅れて、白いウツギ<ユキノシタ科>の花が咲き始めます。同じウツギという名が付いていますが、花の形状は

違います。こちらは、唱歌「夏は来ぬ」にも歌われる別名ウノハナです。ウツギは空木と書くように幹(枝)が中空になっています。白いウツギの花が咲いたら、花の違いを調べてみてくださいね。



町たんけんて来訪



4月28日(木)宿南小学校3年生の社会科学習の一貫で宿南地区自治協議会に児童2人の訪問がありました。地域の人との交流について利用者年齢層、気をつけていること等、自分たちが知りたいことを質問した後、施設内の見学をしました。短時間ではありましたが予定時間を超過しての訪問でした。



お知らせ

5月25日(水)

第1回体育部会

6月5日(日)

クリーン作戦



草庵先生紹介

日記 39



斎藤崎庵が描いた「青谿書院の図」(部分)

青谿書院資料館蔵

今、豊岡市立歴史博物館「但馬国府・国分寺館」(同市日高町祢布)で「斎藤崎庵の軌跡一城崎が生んだ幕末～明治の南画家」展(6月27日まで)が開かれている。南画というのは、主に水墨で山水などを描く絵のこと。山間に身を置いていた池田草庵は、崎庵の描く山水を好んでいた。崎庵とは、手紙のやりとりや青谿書院で親しく話し合ったりして交流していた。

「斎藤崎庵が来て、ずっと話をする。夜になっても続けた。また、『崎庵随筆』を十数ページ開いて見る」(万延2<1861>年1月29日)この夜は崎庵は書院に泊まり、翌朝も話をしたり、崎庵の描いた絵を鑑賞したりして過ごしている。崎庵について、歴史博物館の情報誌には次のように説明されている。「城崎の旅館『伊勢屋』に生まれ、江戸時代後半から明治時代にかけて活躍した日本画家です。学を好み、詩を読み、全国を旅して南画を極めました。幼少より耳と片足に障害があり、南画に描かれる仙人のように杖を持って歩いたといえます」(豊岡市立歴史博物館ニュース48号から) 草庵は崎庵に、青谿書院や周辺の景色を絵に描いてくれないかと依頼したことがある。それは、草庵が尊敬する陳白沙先生と呼ばれる中国の明の時代の思想家の影響を受けてのことだった。このことについて、次のように書いている。「白沙先生は自分の書物巻頭に先生の住む里の絵を載せられている。山と川、それに風になびく霞が描かれ、茅葺きの家があり、さびし気でありながら、志高くひっそりと住む趣がある。私もまた、画家にこいねがって青谿山房の絵を描いてもらった。それで、もし100年後にでも、私の書いた文章が残っていてそれを集めるようなことがあれば、その巻頭には序文の代わりに、この絵を載せてほしいものだ」(「偉業餘稿」163条)

1977年に草庵没後100年を記念して、いろんな記念事業があった。その中で、草庵が塾生に語った「偉業餘稿」の全文(原文は漢文)が書き下し文として出版された。その表紙裏には、草庵が願ったように「斎藤崎庵画 青谿書院の図」が載せられた。

池田草庵先生に学ぶ会

※平成29年5月12日発行朝日新聞記事より